

葬送儀礼(葬儀)について 9

葬法について

火葬

日本書紀によると西暦 700 年に高僧の道昭を火葬したのが始まりとされている。

702 年には持統天皇が火葬された。

仏教の流布とともに土葬、野葬、風葬の捨墓から火葬へと変わっていった。

水葬

紀州熊野の補陀落寺の住職が遷化した時に遺体を船に乗せて沖に流した話はあるが我が国ではほとんど聞かない。

現代では航海中の船舶において船長の権限による水葬は認められている。

戸籍法第 55 条、93 条に定められている。

最寄りの寄港地の国に届け出ることが義務付けられている。

風葬

草むらや林の中に遺体を置き自然に風化するのを待つ。

朽ち果てることを知ることにより死を受け入れることと自然に帰るという二つの意味がある。

沖縄では回収した白骨を洗い壺に納めて納骨する風習が最近まであった。

ミイラ葬

日本では新潟、山形で多く発見されている。

中尊寺の藤原三代のミイラが有名。

僧侶の入定ミイラは即身仏とされる。

葬儀の曲友(かねとも) 札幌

<http://kanetomo.2lala.net>

曲友(かねとも)